

# 三間仏堂の平面構成について

——東北地方の中世遺構からみて——

高 島 成 侑\*

## The Study on the Space of SANGENDO- Buddhistic Hall

Seiyu TAKASHIMA

### Abstract

This reports deals with the construction of the Space of SANGENDO-Buddhistic Hall, the main part of the ceremony, and some conclusions.

There were various Hall in Tantric Buddhism, but among them SANGENDO-Hall is taken up for the subject of this report.

SANGENDO-Hall is one of the most fundamental and important Hall in Tantric Buddhism. And the most characteristic space of Tantric Buddhism is considered to be constructed in the ceremony, ……between general people being converted into Tantric Buddhism and a Monk or AJYARI.

### 1. はじめに

一般に三間堂と呼ばれている仏堂は、正面の柱間が三間の堂ということであり、それには、三間×二間の横長長方形のもの、三間×三間の正方形につくられるもの、さらに三間×四間の縦長長方形のものなどが存在する。三間×二間のは母屋だけの平面と叫ぶものでもあり、三間×三間の堂は、古く平安時代には出現したとみられ、天台宗寺院の常行堂に始まり、小規模阿弥陀堂として地方に普及した様子が指摘されている<sup>1)</sup>。すなわち、一間四面堂をその母形としてもつものと解される。三間×四間のもは、古く一間四面堂に前庇を付けたものとして現われ<sup>2)</sup>、内陣外陣の区画をもつ三間堂へと変化してゆくものようである。

三間仏堂はその規模からしても、あるいはその生成過程からしても、寺院の本堂建築とはなりえず、本尊以外の諸仏を祀り礼拝するための

境内仏堂として普及してゆく様子がみられるのである。

東北地方においては古代の三間仏堂として、岩手県・中尊寺金色堂(天治元年——1124)<sup>3)</sup>、福島県・願成寺(白水)阿弥陀堂(永暦元年——1160)<sup>3)</sup>、宮城県・高蔵寺阿弥陀堂(治承元年——1177)<sup>3)</sup>の三棟の阿弥陀堂が知られており、さらに、岩手県・大長寿院経蔵(天治三年頃——1125)<sup>3)</sup>も古代三間堂の貴重な遺構として存在する。そしてまた、中世室町時代から近世初頭にかけて建立された三間仏堂のうちで、重要文化財に指定されているものが10棟を数える。

本稿はこれら東北地方に遺る中近世の建立になる10棟の三間仏堂を対象に、その平面構成を、それらの建築空間を構成する各部の建築要素(BUILDING ELEMENTS)の比較検討によって理解しようとするものである。

昭和57年12月3日受理

\* 建築工学科助教授